

も昨夜十二時に三人で歸つて来たので、昨から……
八月十六日午後六時 き み
拜復 其後は誠に御無沙汰のみい

矢野 恒太序 大内民惠著
教育制度改革概論

（四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢）

内郷村幸

天法人則
從順ナ
ルベシ

立てよ!

縣下の方面委員!!

大内民惠

これは十月十五日縣下方面委員大會に於て述べたる大要を、訂正増補したものであります。
方面委員制度は、二十一年前大正六年、岡山縣に於て制定せられたのが、其濫觴であつて、本縣に於ては、大正十二年の創始にかゝり本年が其十五週年に相當し本日こゝにかくも盛大なる大會を開催し、物故せられた先輩の恩徳を、功勞者各位の表彰が行はれ、重要な事項の審議に、將た有益なる講演に、意義深き此盛儀を見るに、眞に感慨無量で追懐して、眞に感概無量であると共に、又欣快措く能はざる次第であります。
私が方面委員の任命を忝うしたのは、昭和五年で、當時縣下の委員總数は、僅かに六十五名かと記憶いたして居ります。其頃我々が會合する度に、必ずのぼつた話題は、我々の方面事業なるものが、どうしたら一

般から認められるかといふ事であつたのであります。爾來幾春秋、縣當局の指導と、同僚各位の精勵と相待つて、漸次其緒に就き、昨年十一月、方面委員令が制定公布せらるゝに及んで、こゝに我等多年の念願が達成せられ、我縣下に於ては、千二百方面委員の陣容が整へ、斯道の一大躍進を見るに到れるは、眞に慶賀に堪へない次第であります。
而して今や日支事變突發、超非常時顯現、内務文部兩省を中心とする、國民精神總動員が唱道せられ、全國各府縣知事が、其府縣の實際の代表者を委員とする實行委員會が結成せられ、未曾有の一大運動が、開始せらるゝ事となつたのであります。
此時に當りて、從來顧みられなかつた、我々方面委員

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。
我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年の御懇諭下實地御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不勝感激ニ打メ申候云々

にも、其一役を與へられ、不肖私が代表として、其委員の席末に列する光榮に浴したものであります。されど此使命たるや、申す迄もなく、我々一千二百の方面委員に與へられたるものと云ふべく、茲に我々は、邦家の爲に、打つて一丸となつ

護指導するに當るを以て、此非常時に當面しても、其擔任範圍内より、多數の應召者を出して居る事であるから、之に連關する各種機關と、聯絡協調して、萬遺憾なきを期さなければならぬ事は、勿論であるが、其と同時に、一千二百の我方面

從業員各位

當社は昨年来數次に涉る災害を蒙り銳意之が恢復に努めて居りますが、今次事變に依る社内の應召者は日に多きを加へ各所共手薄を感じ一段と皆さんに緊張精勵を煩して居る次第であります。
今や邦家は重大なる時局に當面し同胞は生命を捧げて戰場に馳驅する秋に當り銃後の職場に在る吾々は飽まで沈着の態度を持し熱誠忠實日々の仕事に精進することこそが何より大切であります
今こそ全山の從業員が打つて一丸となり總親和と努力の旗を押し立て、出征した兄弟達の分まで働き出す覺悟と決心が肝要であります

- ◎ 出征した兄弟達の武運長久を祈りませう
- ◎ 出征した兄弟達の家族を慰め勞りませう
- ◎ 出征した兄弟達の勞苦を思ひ休まず怠けず大いに働ませう

磐城炭礦々業所

て、其使命を全うすべく邁進しなければならぬ事と考へられるのであります。改めて説明する迄もなく、我々平時の任務は、隣保相扶の醇風に則り、互助共濟の精神を以て、其擔任する範圍内の、カド階級を保障するに當り、其市町村に於ける中樞人物であつて、其殆どすべてが、其市町村に於ける振興委員であるのであります。そうした立場にある我々は、此國民精神總動員の第一線に立つて、活躍するに當り、申分のない資格を

有するものであると思はるゝのであります。
希くは各位!大にこゝに鑑みる處あつて、立つて此一大運動に對して、極力奉仕の至誠を致されん事を、念願して止まない次第であります。
最後に一言附け加へます。此私は、過去幾十年、酒と煙草とは、之を用ひなかつたのであります。敢て現在其に代はる貯蓄を有して居る譯ではありませんが、此事局に當面して、一生の酒煙草代のそれを、其旅費に充當し、所謂旅費自辨で、何處へでも出張し、各位の驥尾に附して、頗る貧弱ではあるが、年來研究しつゝ、あつた、國民精神發揚の爲に、最善の奉仕を致したいと思ふのであります。
酒以外飲食物に好嫌なき私には、麥飯大根飯可なり、お粥雑炊又結構、又生來の野人、其寢所の如きも、納屋物置の片隅も、敢て意に介さないものであります。さらん事を、希望するものであります。期日の一週間以前にさへ、御下命あらば萬障を繰合せて、必ず馳せ参する事にいたします。但し月の中旬又は、家事の整理、村報編輯等の爲に、御容赦を願ひたいと思ふのであります。

日本評論社
東京三丁目

内郷村報社

發行所

東京三丁目

八月二十二日

きみ

厄年を危く経過して

濱崎善三郎

大正七年學校を出た年の十月、此磐城炭礦に参りました。庶務係を経て、同一年頃記録係に轉じ、竹の内の社宅に住んで居る頃は現在の第三小學校は、また岡田圓治郎さんとは、職務柄何彼と交渉がありました。當時學校の近所に、今は瑞芳寺の附近に居られる、醫者の高萩桂次郎さんが、開業して居られて、岡田さんと私に、遊びに来い、遊びに来いと、熱心な勧誘が度々ありました。忘れもせぬ大正十一年二月十六日！其數日前から雨降り続きで、その日も朝から降りしきつて、終は止みそうもない。岡田さんから「今日は雨も降るし、徒然でもあるから長い懸案の高萩さん訪問をやらう」といふ話があり、時刻を約し、夕飯後、尻はしよつて、出かけました。岡田さんは既に先着、高萩さん夫妻は、此雨によく来たど、座敷に請せられ、何彼ともてなしが始まり、何となく酒肴の用意を命ぜられ、岡田さんは下戸の下戸で、酒は一滴もやらぬ

人、私は從來酒の爲に、しないでもよい失敗も澤山あつた筈、當時餘程酒にこりこりした事でもあつたのだから九州に歸省した砌、母にも酒は決して飲まないからと、堅く誓つて、歸つたばかりの時であつたので折角の厚意ではあつたが、母を引合に出して、やつと辭退することが出来ました話の間にも、主人公は診察に立たれるので、奥さんは幼児をおんぶしながら、お茶やお菓子と、もてなしをされた。あやしげな醫書に興味をひかれなごした後、もう辭去せんものご立關に立てば、雨は不相變の濡れるのを心配されて、私御主人の夏トランプを貸してくれました。歸途川の水をれば、八合目といふところであり、時刻は十時頃でありましたらう……

ある社宅は、みなやられてしまつたらしい、心配だが助けに行き、どうもならぬ有様、その時フトゆふべ御邪魔した高萩醫院は、川の奔流が直接ぶつかる地の理の悪い處だが、はてどうしたらうと、氣になるけれども、是は又、とても思ひも及ばぬ次第でした。時刻は其の時十二時を一寸ま

はつた頃でしたらう。其内巖眞君のお母さん奥さん其他の人々が、大勢避難して来て、有り丈の着物を着せてあげ、有り丈の着物を着せて焚くやら、大騒ぎでした。暫らくすると、雨はピタリと止み、空は晴れて來ました。西南の空にかゝつた弦月が、すました顔で、下界には何事があつたのかいと思ふ下ろしてゐるやうで、心

此内郷村だけで、死者六十四人、流失家屋百四戸、浸水家屋が二千三百戸あり、落合待従が、御見舞御視察に見えられ、御下賜金があつた程です。

あの晩勸められるまゝに酒を御馳走になつてゐたら！一時間二時間は瞬く間に過ぎただらうし、屹度義を見て爲さざるはの場面に立至つたこと、思はれる。五つ六つの時から泳いで、片耳を犠牲にした程、水泳に自信のある私でも、あの暗夜濁流の中では、良く泳ぐ者は溺れる譬の、實演をしたにちがひありません。

命を助つた母への禁酒の誓は何時の間にか「献酬廢すべし」の聲明に變り之もなかなか實行しかねて今日に到りました。薄志弱行、寔にお恥しい次第であります。

決心隊
大正十二年九月一日正午
事務室で食食をした、めでるると、グラグラと來た強震、室の振り時計が止まつた程度でした。

會員二百名募集

一家を更生せんとする

戸主長男は來れ

一身を立てんとする

二男 三男は來れ

詳細は申込み次第

磐城炭礦從業員寄宿舎

大正十二年創立

七年會

福島縣石城郡内郷村字宮澤

（常磐線 磐城驛）

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、純實主義を標榜す。
- 二、村内外各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を討つ、進取和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の慈善興行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て國民進歩に當る。

御殿少年團の美舉

磐城御殿少年團及少女團で、出征兵士見送り其他の

られたる金五圓を、團長荒木計氏以下四十五名の名義を以て本社經由國防資金に

九月三日は、第一回の國勢調査員に、新宿御苑の拜觀が許されることになつて、

容易ならんことだ、本社の状態を確め、淺野社長初め重役社員達の安否を尋ねなけりやなるまい。鐵夫まで

事があつた場合は、二人の子供と九州に歸つて國の親父に養つて貰へ」と家内に遺言して出かけた譯で、

は、出征兵士見送り其他の

村會決議概要

九月二十日午前九時より開會、左記の件を可決せり
議案第一號

- 一、ラヂオ受信器 壹臺
- 一、蓄音器擴大機 壹臺

價格壹百圓也

第二校へ白水大越松吉より寄附に付採納するものとす

議案第二號

山林特賣議決ノ件

大字御厩へ左記特賣地を一反金貳圓九拾錢の割にて特賣するものとす

但し特賣代金徵收期限は昭和十二年度十三年度の二ケ年とす

一、飯野村大字上荒川字笑堂一七七番ノ内

山林 四町六反歩

一、同 宇大澤一四六番

山林 三町五反三畝參歩

議案第三號

小學校敷地買收ノ件

内郷尋常高等校敷地として左記土地を買收するものとす

- 一、高坂字臺九八番 宅地 百四〇坪
- 一、" 一〇一 番 二畝一二歩

議案第四號

基本金運用ノ件

昭和十二年度小學校敷地買收費に充つる爲左記に依り基本金を運用するものとす

- 一、運用金額
- 一、八〇〇圓 村基本財産
- 一、運用目的

小學校敷地買收費に充つる爲め

一、運用時期昭和十二年度

選挙人名簿縦覧

一、縦覧期間 選挙人名簿ハ十一月五日ヨリ十五日間(日曜日ヲ含ム) 毎日午前九時ヨリ午後四時マデ當役場デ縦覧ニ供ス

一、名簿ノ修正 萬一有資格者デ名簿登載洩レノ方ハ右ノ期間中ニ限リ修正ガ出來マス亦誤載誤認ガアレバ同時ニ訂正モ出來マス此ノ縦覧期間ガ過ギマスト如何ナル理由ガアツテモ修正ガ出來マセン

申スマデモナク選挙人名簿ハ重要ナモノデスカラ是非御一覽下サルコトヲ御願致シマス(係)

歳入

一金四〇一七圓

追加豫算額

一金一八七四六八圓

既定豫算額

合計一九一五一五圓

歳出

一金一三八〇五三圓

經常部已定豫算額

一金一八五圓

經常部追加豫算額

一金四九一五圓

一、戻入方法

自昭和二十二年 据置

至昭和二十七年 年度

自昭和二十八年 年度

至昭和二十九年 年度

年賦

別表年次表ニ依リ戻入ス

ルモノトス(別表略)

一、増蓄金割合 年三分

一、戻入財源

村税及村一般歳入

議案第五號

昭和十二年度追加豫算

臨時部已定豫算額

一金三八六二圓

臨時部追加豫算額

合計金一九一五一五圓也

内譯

歳入

一、財産より生ずる収入 二五〇圓

6 株式配當金 二五〇圓

九、繰越金 一八九五圓

一、繰越金 一八九五圓

二〇、雑収入 一〇二圓

8、山林特賣代 一〇二圓

三、繰入金 一八〇〇圓

一、基本財産繰入 一、八〇〇圓

歳入合計 四、〇四七圓

歳出

三、役場費 一四〇圓

一、警備費 一四〇圓

2 雑費 四五圓

歳出臨時部 七〇圓

一、補助費 七〇圓

一、愛國婦人分會補助 七〇圓

四、小學校營繕費 一、八六三圓

8、土地買收費 八〇〇圓

9、建物移轉費 八一三圓

10、物件補償費 五〇圓

13、校庭増設費 二〇〇圓

5、雑支出 一八〇〇圓

7、武徳殿建築寄附金 二八〇圓

8、出征費 一五二〇圓

6、戻入金 二七圓

2、村基本財産戻入 二七圓

七、積立金穀 一〇二圓

1、積立金穀 一〇二圓

臨時部計 三、八六二圓

歳出合計 四、〇四七圓

石城郡 聯合總會

方面委員 聯合總會

九月二十五日午後一時より

軍事醫療

平市マルトモホールに開催市制實施に依り平市と分離したるを以て新役員選任の結果、會長大内民恵、副會長田口淳三、鈴木康平(湯本)に決定、事務所は當村役場に設置する事になつた

石城郡醫師會では出征兵家族の銃後施設として、醫療報國を爲すこと、相成りました。其の概要を左に

一、出助軍人の遺家族にして、軍事扶助法に該當するものは、當該法に依り診療をなすを第一議とす

二、軍事扶助法及其の他の公共團體の救助を受けたるものを除き、尙醫療費の負擔に堪へざる者は無料診療を爲すこと。但し入院料及手術料も、軍事扶助法施行細則の標準に基き、適當に割引すること。

三、應召遺家族の傷病に關しては、實情に應じ、診療費の輕減に付き、適切なる處置を講ずること。

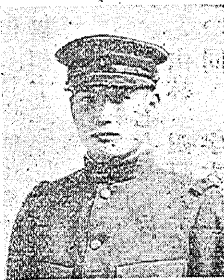
(以下省略)

以上の細則に基き當役場に於て、治療券を發行致しますから必要の場合には役場迄出頭御相談下さい。

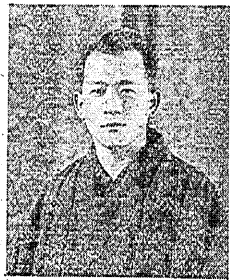
猶お産のことに就ても、同様御相談下さい。(係)

名譽の戦死者

本村大字小島字竹内八出身
陸軍歩兵伍長 加藤政英氏
(三七)は、本年一月幹部候補
生として若松歩二十九聯隊
へ入營、同四月滿洲守備隊
として渡滿活躍中、九月六
日夜、通化北方九キロの地
点車河堡部落にて、共匪と
戦闘、名譽の戦死を遂ぐ



長伍藤加故



氏三廣井廣故

本村大字御厩字上宿一番地
出身廣井廣三氏(三三)は、滿
洲國官吏とし熱河省土木科
に在勤中、九月十日北支昌
平縣小湯山道路修理監督中
突如支那敗殘兵の襲撃に遭

當村大字宮字蛭子八一番地
出身陸軍砲兵一等兵草野實
氏(三三才)は上海戦に於て、
十月十三日名譽の戦死を遂
ぐ。(寫眞次號掲載)

當村大字宮字宮澤社宅磐炭
會社員員井砂與平氏長男陸
軍歩兵伍長井砂正雄氏(三九
は、十月十五日上海戦に於
て、名譽の戦死を遂ぐ。
(寫眞次號掲載)

雨中の奉仕作業

鑑業青年校生
指導員五名の中、三名ま
で出征軍人を出した内郷村
鑑業青年學校生徒は、益々
非常時局下の猛訓練を續行
してゐるが、去る十月十七
日、全く自發的に共同奉仕
作業を堀校長に申出て、全
職員を感激せしめた。
それは今回全校に新築さ
れた銃器室の土間十坪の土
盛りと、コンクリート作業
の激務的な、技術的な仕事
であつて、勿論學校では相
當の費用をあて、専門家に
一任しやうと豫定して置
いたのであるが、生徒の熱
ある奉仕希望を容したので
あつた。

生徒三十名は當日午前八
時登校、折からの猛雨を物
ともせず、土を運ぶ、砂を
運ぶ、土間を叩く、常なら
ば待望の日曜日にも拘はら
ず、全員一致、ただ黙々と
して働く様は、恰度戰場第
一線の勇士の姿を想はせる
ものがあつた。

農家曆

十月 收穫の月
(下旬) 水田三毛作莢豌豆の播種
稻及大豆の乾燥に注意、大麥田麥
の播種、雲苔の移植、寒土當歸の
軟化栽培始、桑苗及肥料の準備、
養蠶實行組合成績、其の他各種の
調査。

十一月 霜月

(上旬) 稻抜き並に米の調製、麥
類の播種、養牛牛糞人糞落花生の
收穫、紫雲英栽培地の排水口注意
秋時草及天の霜返、改種及耕止菜
圃の掘起及天地返、菜園の耕松及
施肥(第三回)麥類の黒稻病の豫
防湯湯法の施行。
(中旬) 穀の乾燥調製に注意する
家兔販賣始む、椎茸栽培用楢木
の伐採、大根漬漬の製造、軟化用
野蜀葵掘取、二毛作秋甘藍葱頭の
定植、木炭又は煉炭製造講習會の
開設、菜園植付、果樹類落葉の燒
却實行。

かくして午後四時、青年
の意氣と協力の威力によつ
て、立派に完成し、凱歌を
揚げた。
一名として泥にまみれな
い者なく、一名として肌着
まで雨の通さないものはな
かつたが、終始欣然として

走り廻る様をみて、校長以
下職員は、ただ感激あるの
みであつた。
尙ほ感心すべきは、この
青少年時代によくある後始
末の忘却等のことも全然な
く、よく機具機械の清掃整
理をなして、歸つた事であ
る。國民精神總動員強調週
間の自動的な美舉として、
特筆に値する。(係)

出でよ人物(二)

由來發展は物的條件にのみ支配さ
れる。人的要素にあることは古今
東西を一貫する真理であつて畢竟
内郷に偉材出でざる源流は指導階
級の職業誠誠に缺陥なきや即ち「ト
ロフェーション」でなく「トロー
ド」なるか故なりと断ぜざるを得
ぬ。即ち國家社會の共通善の爲に
活動するさいふこそが人間としての
仕事であり、さいふが人間としての
さいふ事、限目であるべき管
理の事に、収入を目的としてその仕
事を手段としてゐる、所謂拜金主
義若しくは「利己主義」だからで
はあまいか。
公共の利益は自己の利益に先立つ
べきものであつて、自ら一の信念
に生き得る人のみかよく他に向つ
て信念を與へるのであらう。
結局指導者たる人の熱心人格が偉
材を産む。
會津の後英山鹿素行の門に赤穂義
士の統領たる大石良雄出で、白虎
隊の日進館に於ける教育の如き又
松下村塾より維新の元勳輩出せる
も偶然にあらず。大西郷は如何
嘉永二年の冬、南國には言ひ寒氣
厳しき夕、國土赤土山朝賀先生が離
に殉じ生命に依つて割腹する時、
青年西郷吉之助は招かれて自刃の
場に臨んだのであつた。

縣下 委員大會

十月十五日方面委員創始十
五週年記念大會へ金澤助役
大内、田中、赤土、松村、
山崎(辰)金澤の各委員並に
渡邊書記臨席の爲め出張せ
り、途中郡山に下車市内の
社會事業を視察した。
(詳細は赤土委員大會記参照)

内郷 第三校 大橋貞勝

死に臨んで吐く一語々々國を思ひ
君を思ふの真心から亡びゆく自らの
遺志を繼がしめんがために弟子
たる隆盛に「立派な武士になれ」
君國のために一命を捧げよ、正義
の爲に殉せよ」さ最期の訓戒を垂
れ從容として割腹し「片身として
此の肌着を御身に與へる」さ血痕
斑々たる先生の肌着を手にして、
吉之助は胸を刻し「さ」して、
又世界人類の父野口英世博士の恩
師小林榮先生郷土の猪瀬政學校長
の生徒大越中佐、而して大越中佐
の弟子板垣、土肥原兩中將、かく
觀じ來れば、人物は、時折位を越克
し偉大なる教育者より、人物が出
る事は一理あるのではあまいか
個人の完成は所詮君國への自己犠
牲の道、その對象に奉仕すること
によつて光彩を放つ。
まごころは我を動かす人を動かすも
のである。「眞實は永遠に輝く」此
の意味に於て人物出でよは「眞の
教育者出でよ」を前提とするもの
で、文字通りの殉教の士の教育活
動によつて所期の目的は達成せら
る。
身を教育に捧げんとする者正に内
郷百年の計樹の非常に切に
自奮自勵を祈る。
私は以下順を追つて小學校教育革
新の根幹をのべんとせざる者で暫く
私の爲に時間を割愛せられん事を
望むのである。
昭和十二年九月十日 稿

開拓記 録 (三)

北海道十勝國上川郡 清水町 清水山莊 大内 一 郎

今日はお盆の十六日なので、今朝餅を搗き、お佛様に供へてお送りいたしました。そうして其を五十嵐さん小林綿屋さんへも、持つて行つて上げました。小林さんは十八日午前一時に、〇〇へ出發なうで、御内儀さ五十嵐御主人さそれが送る爲に、旭川へ行かれたそうです。又此我部落から一名召集になり、明日出發するので、一戸五十銭宛集めてくれさいふ事で今朝男達三人手分けして集金いたしました。昨日今日日は、お盆休みにはいたしました。十二日附御手紙本日頂きました。會の内外お一人でなかくです。下駄屋のお春さんも、家を買ふさ大に發展したもので、當年の辛棒ぶりを想起して、一同喜んで居ります。どうぞよろしく申しておいで下さい。(お春さんとは、八年間七年會の炊事を擔當し、三年前其貯金を資本として、長男に下駄屋を開業させたる婦人) 鱈の味淋漬を又送つて下さる由、こちらではもうなくなる許りです。秋刀魚の漬物はますますですが、鱈のやうにはならず、おいしいうらやう思はれます。此頃は晴天つゞきで明日は大麥落しです。いたゞいたラツキヨは、今日漸く其三分の二丈を本漬にいたしました。一郎は町出身力士の、引退角力を見に行き、また歸りません。二少年は疲れたからさてやすんだ處です。尤も昨夜十二時に三人で歸つて来たのですから.....

見町議も出席、町議を代表して、一場の挨拶をせられました。開宴中小生に、お父さんから頂いたつたお歌を、是非短冊に書いていたゞたいから、お母さんにお願ひして小夢は盆前に片づき、大夢も昨日一日で落しました。またはつきりした事はわかりませんが、小夢は昨年比して、三四倍の増収と思はれます。さかく一同張り切つて馬力が、かかります。胡瓜も毎日十本以上收穫、其他茄子、キヤベツ、水菜、大葉等々、新鮮な野菜を、盛んにたべて居ります。トマトももう少しで色づく事になります。南瓜はお盆一つ下まつたものです。青豌豆は全部刈りとりました。玉蜀黍も少し少したべ盛りになるさ存じました。西瓜胡瓜も大分大きくなりました。永山農學校長渡邊徳藏様よりの暑中御見舞状に、お父さんが切角御渡進になったのに、お會ひ出來ず残念です。お母の折よろしくお附記されてあります。先日記載の鈴木善氏より、例の賣拂地買測は、第二次となり、九月ころか、十月頃に来るさの事に其時は勿論、立會つていたゞたい様になるさしようさ、い様なお便りを頂戴いたしました。補助牛の方は今年中ありません。來年は移住後四年たけないます。目下農會が中心となり、基礎牡牛購入計畫が、進められて居りますが、それは四百圓位の良牛で、自分で選定し出願し、よく調査の上、適當と認めれば、それを買つてくれ、其半額を即納し、半額は組合で貸して、一ヶ月据置、三ヶ年賦で償還する事なるさそうです。宛に角其一切が、来る二十日なそうです。申込入でおきました。若し之かきまる様でしたら、二郎公と相談して、眞駒内の種寄場から、適當なものを買ふ様にしては、お母さんと申して居る處です。何れ詳細は追つて申上げるさになります。敬白 八月十八日 一郎

「家の光」を配布するのなごも、其役目なから送つていただいた「家の光」を、やめていただいた當方から不事なさいさうさ思ひますから、左様おふくみおき下さる産産業聯の主催で、二十二日午後六時より、清水産産會場として家の光大會を開催するの議起り、昨日午後二時より引張り出され、役員十四名より、引張り出され、本日より開始する事にいたしました。時局柄出張家族慰問活動さ銘を打ち、入場券五錢は、慰問金として其筋に献納する事にさりきめしました。但し讀者は招待さりきめです。かくて午後七時開演いたしました。北清水女子青年團長を引きうけて、いたゞきたいさの事なので、敵から棒で、サツパリ見當がつかず、結局若輩其任でもありませんで、忙しう體でもあるので、兎も角御容赦願つて、かへつていたゞきました。今日さいふ今日日、いろく、の事かあつたものさ、考へて入浴、くつすりやすみました。猶木下さんは、四百圓なごを出さなくとも、いくらか血統の牛を手に入れられるから(牝牛で冬中に乳の出るもの)御世話いたしましたさうさ、申して居られるのでよろしく御願ひするさ申上げておきました。本日の報告は之にて終ります。巻簾小母さん始め皆々様まつたホーイスガールによるさ敬白。八月二十一日 一郎 (前略) 明日(神寺へ)、總持寺の伊藤道海師が來られるので、一郎をつれてお参りに行つて参ります。本宮の石雲寺位牌堂建立について金百圓御寄進の由、御先祖様は勿論、やがては私共も納めていたゞかつたさ、一同喜んで居ります。此頃は天氣がよかつたので、大夢小夢は全部袂に詰めて、積み上げ製麵所におくり、そめんに作る様依頼致しました。五六日後に出來上りますから参り次第第一番にお送りいたします。之が本年始めて食料品なつていただけるとののであります。目下は燕麥刈り、家畜飼料の草刈等々で、ほんたうに忙しう御座います。男達は二十四五日の兩日、二里先へ砂取りに行き事なつて居ります。其砂は家畜の尿溜を作る材料なるものであります。あなたがお時き下さつた南瓜の初なりは、お盆に佛様に上げ、お流れを皆で頂きました。またほんたうのみのりでありませんでした。來年は是非九月上旬頃、お出を願つて、唐きびやら南瓜やらの御馳走をいたゞきたいさと思つて居ります。當方一同壯健で、由清は獨りで起きて、腹はいたゞくはなりました。智慧も發達もさばらしいのに驚かれます。此次御來莊の時、は、ごんごんに面白く事さう。二郎の顔も、四十日後には見られるさ、皆で楽しんで居ります。稻きびの穂は、昨年の三倍位はある様ですから、すばらしい收獲であるさ喜んで居ります。之は九月中旬頃刈り上げる様定です。北海道にも、こんな暑い年もあるものか、感心して居ります。先本年は、何さいつても昨年に倍する收獲があるさ存じます。皆さんによるさ。 八月二十二日 一 郎

矢野 恒太郎 大内民惠著 風俗学之吉 教育制度改革概論

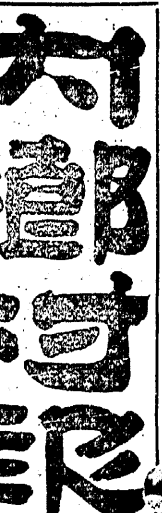
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士

著者寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク、眞實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不厭懇數ニ打テ申候云々。

日本評論社 發行所 内郷村報社

東京京橋三丁目 取次所



天法 順人 則

にも、其一役を與へられ、不肖私が代表として、其委員の席末に列する光榮に浴したのであります。されど此使命に、申すまでもなく、

有するものであると思はるゝのであります。希くは各位!大にこゝに鑑みる處あつて、立つて此一